

懐かしい顔が集うふれあいの旅 震災後初めての町民号を実施

6月6日（土）、7日（日）の2日間、広野町制75周年記念・第31回広野町民号を実施しました。東日本大震災後初めての町民号で、広野駅に特急スーパーひたちの車両が乗り入れたのも、震災後初めてのことで、下は小学生から上は80歳代まで200人以上の町民が参加し、広野駅での出発式では、花束贈呈やテープカットを行いました。広野駅を出発した後、四ツ倉駅、いわき駅、湯本駅でも参加者が乗り込み、長野県・善光寺、群馬県・富岡製糸場などを巡る1泊2日の旅を楽しみ、親睦を深めました。

1日目
6月6日（土）



午後6時半

交流会

▲交流会の様子

町民号一行は、宿泊先である長野県千曲市の戸倉上山田温泉「ホテル圓山荘」に到着しました。夕食を兼ねた交流会には地元千曲市の岡田昭雄市長も出席し、余興やお楽しみ大抽選会などで参加者相互の親睦を深めました。



午後3時半

善光寺を観光

▲善光寺を観光する町民号一行

町民号一行は長野市の善光寺に到着しました。参加者は号車ごとに記念撮影したあと、参拝や見学をしました。広野町を出発したときはあいにくの雨天でしたが、旅行先は晴天でした。



午前6時10分

出発式

▲出発式でのテープカットの様子

震災後初めての町民号の出発に先立ち、JR広野駅で出発式を行いました。遠藤町長のあいさつのあと、川畑亨・いわき駅長らから町長と黒田政徳・広野町商工会長に花束が贈呈され、町長、黒田会長、川畑駅長がテープカットを行いました。広野駅からの参加者が、6時38分発の臨時列車に乗り込み、町民によるふれあいの旅の始まりです。

2日目
6月7日（土）



午後9時半

広野駅で参加者を見送り

▲参加者を見送る町長ら

第31回広野町民号は、無事にふる里ひろのへ戻りました。途中、湯本駅、いわき駅、四ツ倉駅で降車した参加者と別れを惜しみました。町長、菅野副町長、浅野教育長は、広野駅で降車した参加者一人ひとりにあいさつをして、帰宅を見送りました。



正午

ドライブインで昼食

▲ドライブインで昼食をとる町民号一行

広野町民号は、群馬県安中市の碓氷峠入り口にあるおぎのやドライブイン横川店を訪れました。昼食として有名な峠の釜めしセットに舌鼓を打ったあと、お土産を買い求めました。



午前9時半

富岡製糸場を観光

▲富岡製糸場を観光する町民号一行

町民号2日目は、群馬県富岡市にある世界遺産・富岡製糸場を訪れました。一行は製糸場跡を巡り、わが国の近代化に大きく貢献した歴史に思いをはせました。

